

研究タイトル:

## 蘇曼殊の日本観とアイデンティティ形成について



氏名:	渡邊 朝美 / WATANABE Tomomi	E-mail:	chaomei@tsuyama-ct.ac.jp
職名:	特命助教	学位:	博士(文学)
所属学会・協会:	現代中国学会		
キーワード:	蘇曼殊、異文化理解、アイデンティティ形成、中国近現代史、中国語教育		
技術相談 提供可能技術:	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中国語</li> <li>・中国語教育</li> <li>・日本語教育</li> </ul>		

### 研究内容:

清朝政府が、アヘン戦争敗北によって列強諸国による侵略を受けたことにより、多くの知識人が日本に留学し、日本を通して西洋文明を学び、中国の近代化に大きな役割を果たした。そのため、日本に言及せずして中国の近代化を語ることはできない。魯迅、周作人兄弟、郭沫若、郁達夫ら中国近代文学の旗手とみなされる人物も日本に留学し、多くのことを吸収し、それらを自身の創作に活かした。前述の文学者以外にも孫文、陳独秀、章太炎などの政治家、思想家も日本に滞在し、活動を展開したことはよく知られている。しかし、陳独秀や章太炎らと同時期に来日し、古典詩や小説を発表し、当時の中国人青年たちの紅涙をしぼった蘇曼殊の存在は、現在の日本ではあまり知られていない。

当時の知識人たちは、伝統的価値観と対峙しながら社会改革や産業・文化の発展に尽力した。蘇曼殊もそのような知識人のひとりであるが、彼の場合はさらに、中国人と日本人との間に生まれたため、中国と日本のはざまでも葛藤があったと考えられる。そのため、蘇曼殊の言動には不可解な点も多く、作品も幻想的である。

作品の分析を通して、蘇曼殊の生い立ちが彼のアイデンティティ形成にどのような影響を与えたのか、それがどのように作品中に反映されているのかを探ることによって、彼がどのように異文化と向き合い、それを吸収して自分のものとし、作品へと昇華していったのかを明らかにする。そのことが、グローバル化が叫ばれ、多元的なものの見方が求められる現代社会を生きる我々に何らかの示唆となることを期待している。また、蘇曼殊の日本観や社会の変容に対する彼の考えを明らかにすることで、日中関係史にも一石を投じることができると考えている。

### 提供可能な設備・機器:

名称・型番(メーカー)	